アセットマネジメント実施に関するガイドライン策定委員会　第１回　議事概要

日時：令和４年 12 月２日（金）15:00～16:30
場所：TKP 御茶ノ水会議室　504 号室

【議事概要】
事務局から配布資料について説明が行われた後、ストックマネジメント実施に関する現状の課題及びアセットマネジメントの概念について、委員の意見を伺った。
委員からの主な意見は以下のとおりである。

１　ストックマネジメント実施に関する現状の課題
・ストックマネジメントの実施にあたり、浸水対策や耐震化を考慮しつつ、老朽化対策としてストックマネジメント計画を策定している。計画上は、施策間の連携について考慮しているが、実務上は計画どおりに進められないことも生じている。
・ストックマネジメント計画は老朽化に特化した計画となっている。耐震化等の個別計画も別途作成しているが、事業量が多く、策定時期、策定スパンも合っておらず、施設全体の最適化を図るには至っていない状況である。
・改築に係る調査～設計～工事が２～３年程度と比較的サイクルが短く、関連施策も調整したうえで総合的な判断を行うことが難しいため、検討のステップを追加する必要がある。
・ストックマネジメント支援制度の定着により、事業の必要性を説明することはできるようになってきたが、執行体制の必要性を説明することは難しい状況であり、ストックマネジメントを実践するうえでの大きな課題となっている。

２　アセットマネジメントの概念
・古くから供用している処理場の大規模な再構築では、施設全体をリニューアルするため、機会を逃さずにさまざまな施策における要素を取り入れた検討を行う必要がある。
・耐震化・耐水化・浸水対策等の複数の事業について、予算配分やリスクマネジメントの検討などが課題である。
・長寿命化支援制度は個別の設備ごとの最適化、ストックマネジメント計画は施設全体の最適化、アセットマネジメントは下水道政策全体の最適化であると考える。
・現状導入されているアセットマネジメントは現状を維持するために行うものであり、高度化を狙ったものとなっていない。
・「脱炭素」、「汚泥利用」といった観点まで考慮することは、中小自治体にとっては難しい。
・アセットマネジメントの概念が一方通行的な表現となっており、ハードルを高く感じる。コスト、リスク、サービスレベルのトレードオフを考慮し、各リソースについて調整を図りながら取り組むという概念図が良いと考える。
・自治体の規模によらず執行体制は厳しい状況であり、委託して補完すればよいというものではなく、執行体制強化の必要性について今後議論が必要である。
・アセットマネジメント（資産管理）が事業費を低減するという議論に終始してしまうことも少なくないため、資産の活用や地域活性化といった観点も重要である。
・ガイドライン等でアセットマネジメントを示すと難しく捉えられることが想定されるが、職員数の少ない自治体でも実施できると思わせるガイドラインの作成をお願いする。